

砂と暮らし 砂に学ぶ

長期間海外へ学生を派遣するこのプログラムの担当職員の一入である私の主な役割は、学生が現地で精神的にも身体的にも元気で過ごせるように

縁の下の力持ち?

—ITPを支える職員の仕事—



学生の派遣先研究機関(シリア・国際乾燥地農業研究センター)にて、現地の関係者らと打ち合わせを行っている様子(左端が筆者)。現地担当者との繰り返し打ち合わせを行い、学生が安全に生活・研究できる環境であるかどうかを実際に確認してはじめて、安心して学生を海外へ派遣することができる

対策を講じることです。実際に派遣先の機関に赴き、学生が安全に生活・研究できる環境であるかどうかを確認したり、先方の担当者とのメールや電話で学生の派遣について打ち合わせを行ったりしています。

また、フライトやビザ、保険などを手配したり、学生のための安全マニュアルを作成したり、万一の時の緊急連絡先リストを整備したりすることも私の役目です。

時差のため、現地の関係者から深夜に電話がかかってくることもあります。そのため、携帯電話は一時も手放せません。また学生が病気になったときなどは、心配で眠れないこともあります。一方で、研究が順調であることを学生が元気に報告してくれたり、現地の研究者らが、彼らはとてよやくやっているよ、と知らせてくれたりする度に、この仕事に携わる喜びを感じます。また、彼らの話を通じて現地の生活を疑似体験できるのは、この仕事を担当する者の特権です。

(鳥取大学・農学部職員 大塚優子)
(水曜日に掲載)